

# 縄文からのメッセージ

～1 万年にわたる六ヶ所村の縄文遺跡群～

自然豊かに恵まれた六ヶ所村には、先史時代からの遺跡があり、昭和 50 年代には「むつ小川原開発」により多くの遺跡が発掘された。今年、開館 30 周年に当たり、約 1 万年にわたる六ヶ所村の縄文遺跡群を紹介する企画展を開催した。

## 1 旧石器時代 (約 30,000 年前～16,500 年前)

「はじめの人は、どこからやってきたのか」

・発茶沢 (1) 遺跡 後期旧石器時代から縄文時代草創期にかけての石器 3 点が出土！(搔器・削器・剥片) 千曳浮石層 (約 12,700 年前) の直下から旧石器時代の石刃技法で制作された搔器が単独で出土。



狩りの様子

## 2 縄文時代草創期 (約 16,500 年～11,200 年前)

「はじめに土器を作った人たち」

土器の出現により、後の人口増加や定住化につながる。弓矢を使い始め、石皿や磨石が一般化する。

### (1) 幸畑 (7) 遺跡 「狩猟中心のベースキャンプ」

千曳浮石層の下から約 220 点の長者久保・神子柴系石器群が出土。遺構はみられなかった。



幸畑 (7) 遺跡出土の石器

### (2) 表館 (1) 遺跡 「縄文の美：隆起線文土器出土」

隆起線文土器は千曳浮石層とその上位から出土。全国的な広がりがある重要な資料。



隆起線文土器

### (3) 発茶沢 (1) 遺跡 「土器は煮炊きする道具なのか？」

隆起線文土器の底部片は、中央に直径 17 mm の円紋が施され 7 本の隆起線が放射状に施されている。

## 3 縄文時代早期 (約 11,200 年前～約 7,000 年前)

「定住がはじまり ムラが形成された」

縄文海進が進み、漁労活動が活発化し貝塚が形成される。末葉に大型住居が出現し定住化が進む。イヌを家畜化。縄文文化の基礎がつくられる。

### (1) 表館 (1) 遺跡 「大型住居が出現」

竪穴住居跡 23 軒、増築された大型



第 108 号竪穴式住居跡復元住居

住居の出現。

### (2) 千歳 (13) 遺跡 「土坑と捨て場」の遺跡

### (3) 上尾駸 (2) 遺跡 「早期中葉の小さなムラ」

### (4) 新納屋 (2) 遺跡 「吹切沢式期の集落跡や土器」

## 4 縄文時代前期 (約 7,000 年前～約 5,500 年前)

「円筒土器をつくった人たち」

温暖化による縄文海進が進み、水産資源が豊かになる。ブナ・ナラなどの落葉広葉樹の森。後半に円筒下層式土器群が开花し、平底の深鉢が一般化。縄文社会が安定し複雑化。縄文文化が大きく花開いた時期。



円筒下層式土器

### (1) 表館 (1) 遺跡 「村が小規模化。円筒土器が出現」

### (2) 上尾駸 (1) 遺跡 「円筒下層 d 1 式期の集落跡」

### (3) 発茶沢 (1) 遺跡 遺構はなし。前期前葉の早稲田 6 類の土器が多く出土。三角柱状磨石や叩石出土。

### (4) 家ノ前遺跡 「早期後葉から前期前葉の葬制を考えるうえで重要な遺跡」

### (5) 大石平 (1) 遺跡 前期前葉と後葉の土器が出土。

### (6) 上尾駸 (2) 遺跡 前葉の早稲田 6 類期の竪穴住居跡 2 軒、土坑 2 基が出土。

### (7) 鷹架遺跡 遺構外から早稲田 6 類土器出土。



### (8) 幸畑 (7) 遺跡 遺構なし。前葉の早稲田 6 類が出土。格子状押型文土器も出土。

早稲田 6 類土器

### (9) 泊遺跡 後葉の土器多数出土。泊小学校建設用地。

## 5 縄文時代中期 (約 5,500 年前～約 4,100 年前)

「二つの大集落をつくった人たち」

温暖な気候で、ブナ・ナラ・クルミなどの落葉広葉樹が広がり、後半に海退現象始まる。物資が流通し集落が大規模化。人口数が全国で約 26 万人を超える。縄文文化の高揚期。

### (1) 富ノ沢 (1) 遺跡 「A 地区大集落衰退期の遺跡」

### (2) 富ノ沢 (2) 遺跡 A 地区 「馬蹄形の大集落」

約 500 年以上続いた馬蹄形集落。竪穴住居跡約 410 軒と土坑 698 基、中央には坑墓群、掘立柱建物跡が 9 軒、祭壇を持つ竪穴式住居跡 94 軒、配石遺構が 4 基。広場に弧状の小ピット群 (トーチ



十字形無脚土偶



円筒上層式土器



榎林式土器

ムポール)と埋設土器2基。捨て場2か所が出土。

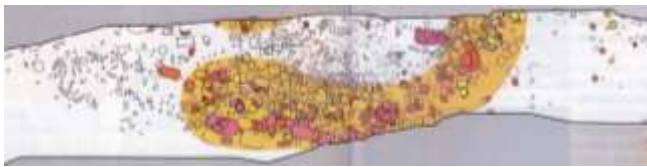


図1 富ノ沢(2)遺跡A地区の遺跡図

(3) 富ノ沢(2)遺跡B地区 竪穴式住居跡9軒、土坑100基。

(4) 富ノ沢(2)遺跡C地区「東北南部の影響を受けた大集落が、突然出現。入れ替わったのか？」

B地区の集落と同時期だが、別集落。A地区の集落が衰退後に東北南部の大木式期の大集落が突如出現。竪穴住居跡79軒、土坑約179基。

(5) 富ノ沢(3)遺跡「集落成立期の遺跡」

竪穴住居跡3軒

(6) 上尾駁(2)遺跡「祭壇のある住居」

(7) 弥栄平(1)遺跡  
「大木10式併行期の竪穴住居跡」

竪穴住居跡21軒



竪穴住居跡の復元

## 6 縄文時代後期(約4,100年前~3,000年前)

### 「集落が分散化 社会構造や精神文化の変容期」

気候は寒くなり、海退現象が進む。大規模集落が分散し、環状列石や配石遺構、石棺墓や甕棺、漆文化や漁具、祭祀具が発達する。集落や墓のあり方、社会構造や精神文化など縄文文化の変容期である。

(1) 幸畑(1)遺跡「集落が分散化」

竪穴住居跡3軒、土坑5基

(2) 弥栄平(2)遺跡

「弥栄平(2)式が設定」

後期の十腰内I式土器の成立を考え

るうえで貴重な一括資料。

甕棺と縄文人の骨



(3) 大石平(1)(2)遺跡「祈りの場か？」

湧水地点南側に、中央に配石遺構を有する広場の外側に12m幅で、円形にめぐる柱穴やフラスコ状土坑群が十腰内I式期に形成される。竪穴住居跡49軒・土坑776基・配石遺構18基・屋外炉6基と多数御柱の穴(トーテムポール)。出土遺物198点国の重要文化財に指定。



手形足形土製品



赤漆彩色切断土器

(4) 上尾駁(2)遺跡「墓と木柱の縄文広場と大集落」

竪穴住居跡78軒・屋外炉24基・土坑395基・配石遺構54基・埋設土器5基・焼土遺構7基・数十本の木柱穴。切断壺、石刀・



図2 上尾駁(2)遺跡 想像図

円板状石製品・石冠・ヒスイ製垂飾品・加工痕のある水晶、足付土板・土偶・耳飾り・鐸型土製品・靴型土製品・キノコ形土製品・土冠・動物形土製品・土器片利用土製品が多数出土。



ヒスイの大珠

(5) 沖附(2)遺跡 「沖附(2)式が設定」

竪穴住居跡9軒

(6) 鷹架遺跡「後期葬制を知るうえで貴重な遺構」

壊された土器7個体を敷き詰めた土坑や3基の円形土坑の中央土坑から3個の完形壺が出土し、内部から骨片が検出された改葬用土器棺を検出。

(7) 弥栄平(6)遺跡「竪穴住居跡内から切断壺や埋葬用壺が出土」

(8) 発茶沢遺跡 「落とし穴665基出土」

中期から後期にかけての溝状土坑(落とし穴)が665基出土。対岸の富ノ沢遺跡や大石平遺跡、上尾駁遺跡の大集落の人々の狩場だったか。

## 7 縄文時代晩期(約3,000年前~約2,200年前)

### 「共同墓地に葬られた人たち」

河川の流域に大集落がみられる。サケやマスが主要な食料。多彩な漆製品や土器、遮光器土偶で有名な亀ヶ岡文化が栄える。篋状木製品や土笛、土面などもみられ、呪術や祭りが行われたと考えられる。

・上尾駁(1)遺跡C地区「共同墓地が三か所、住居域は不明。ふるさとの地に埋葬されたのか」

土坑墓21基の共同墓地、埋設土器1基。鼻曲がり土面、石刀、ヒスイの首飾り(ヒスイ製が93点と緑色凝灰岩の玉類766点)、櫛・赤漆繊維製品、耳飾り、ベンガラ、土偶が出土。



鼻曲がり土面



首飾り



首飾りをした土偶